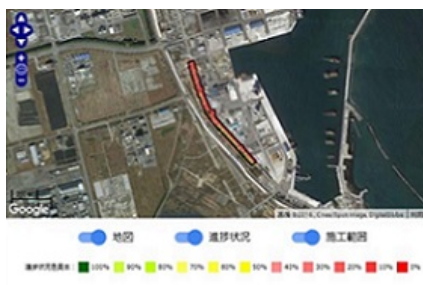


I C T 建機がオペレータの操作をサポート。

噂に聞いてた I C T 施工
未来の現場に挑戦

今回の現場は、庄司建設工業（株）様が施工する福島県相馬市の港湾道路再復工事。現場監督の臺内広昭さんにスマートコンストラクション導入前の印象を聞いた。「i-Construction説明会へ参加するなど、新技術を積極的に取り入れようとは考えていたが、安全面、工期短縮、経費削減、人員不足の解消、創意工夫の加点対象などに効果があると聞いている程度で、未知の部分が多い印象だった。」と話した。導入の経緯を聞いた。

「担当営業に導入するまでの段取りや必要なもの、そして図面作成や導入した後の現場サポート体制についても丁寧に説明してもらいスマートコンストラクションの内容が少し見えてきたのと、掘削作業時に、位置や深さを確認する手元作業員が不要となると聞き、接触事故等の災害リスクも低減できると考え導入を決めました。未来の現場に挑戦だね。」と話した。



現場監督 臺内（だいうち）広昭
さん



職長 菊地武光さん

福島県
庄司建設工業（株）
相馬営業所様

1922年創業 国土交通省、中央官公庁、港湾を始めとした建築、土木工事を施工。安全には十分に神経を注ぎ、施工短縮、施工完了後の出来栄での優良表彰を目指して日々努力している。

I C T 施工の活用でどう現場が変わるのか？最新の技術を取り入れたいの思いで I C T 建機を導入した。

掲載月:2016年9月

I C T 建機を工夫することで
あらゆる部分に対応

導入したPC128USiについて職長の菊池武光さん聞いた。「今回の現場は経験の浅いオペレータに施工を任せたため、最初は不安に感じていたが、日々乗ることによって I C T 油圧ショベルを使いこなしてくれた。」と話した。「慣れたころには熟練のオペレータと同等、もしかしたらそれ以上のスピードで精度よく施工してくれて、導入してよかったよ。」と、現場監督の臺内さんも満足げに教えてくれた。「I C T 建機の周りに作業員がいなくなったおかげでオペレータは安心して施工が出来たみたいだよ。ストレスも減ったと思うよ。」とも話した。オペレータはセミオートモードでの施工に慣れたところで、運転操作技術も磨くためにマニュアル操作の練習もしたそうだ。今後、あらゆる場面に対応できるようにと I C T 建機をお手本に、工夫して使用している。

